

こうちミュージアム ネットワーク通信

March
2007
●
vol.5

目次

- | | |
|---|--|
| P1…土佐の文化財「フクちゃん」 | P5…コラム「ナイト・ミュージアム」 |
| P2…随想「未来の来館者のために」・文化の言葉「コロタイプ」 | P6…現場通信「『功名が辻』の一年」 |
| P3…会員紹介「春野町立郷土資料館」「いの町紙の博物館」
「宿毛市立坂本図書館」「龍河洞博物館」 | P7…展示会批評「念力キャンパス」
図書館の窓「高知の地域史を調べる手引き書」 |
| P4…活動報告「JAFRAアワード(総務大臣賞)受賞」
時の話題「ミュージアムグッズ」 | P8…情報コーナー・会員一覧 |

フクちゃん

土佐の文化財

高知市出身のまんが家・横山隆一。まんが家として初めて文化功労者になった彼の代表作として最も著名なのが「フクちゃん」だ。
いがぐり頭に大学帽がトレードマークのフクちゃん、一九三六年『東京朝日新聞』連載四コマまんが「江戸っ子健ちゃん」で初登場。そのやんちゃなキャラクターが人気を集め、タイトルの変動や連載休止期間もあったものの、一九五六年からは『毎日新聞』に活躍の場を移し、「フクちゃん」のタイトルで十五年間連載、五五四三回の記録を樹立した。



「フクちゃん」が長く愛されたのは、身近な話題を子ども目線で描くことで、家庭に温かな笑いをもたらしたことが一つの要因であろう。連載初期は子ども時代の経験を描いていたという隆一。「フクちゃん」は「高知生まれの東京育ち」だと語っており、その背景に幼少期を過ごした高知があることが伺える。
隆一は、自らの作品・コレクションを全て高知市へ寄贈。現在は、同市の横山隆一記念まんが館で保管されている。「フクちゃん」の原画も五千点以上収蔵しており、その画像データは同館まんがライブラリーの「フクちゃん百科」モニター上で閲覧も可能だ。

(横山隆一記念まんが館 奥田奈々美)

「フクちゃん」(『毎日新聞』1956~1971 連載) 原画
墨・ケント紙 18.2cm×25.7cm
横山隆一(1909~2001) 画
横山隆一記念まんが館 所蔵

随想

未来の来館者のために

香美市立美術館長 北 泰子

平成六年に開館した土佐山田町立美術館は、平成十八年三月の香美郡土佐山田町・香北町・物部村の合併に伴い香美市となり、名称を香美市立美術館と変更しました。

私は平成十五年四月から館長として勤務することになりましたが、前年度の入館者数は創立以来、最低を記録していました。就任一年目の四月に最初の企画展をオープンさせましたが、来館者がほとんどありません。「なぜ、美術館に人が来てくれないのだろうか？」美術館で待っていてもその答えは出てこないで、地元の様々な立場の人々にまず話を聞きました。その結果、公の施設として存続していくために必要だと考えられることを挙げてみました。

- ① 地元の人々のニーズに応えられる美術館であること。
- ② 地元の人々が興味、関心を持てる企画展の開催と関連企画を充実すること。
- ③ 学校との連携を強め、将来の来館者である子どもたちへの働きかけを行う。
- ④ 来館者に対する笑顔でのあいさつや親切な対応など、さらなるサービス向上に努め、リピーターを増やすこと。

⑤ 報道関係各社への働きかけを強め、一般の人々へのPRチャンスを高め、美術館の存在と、企画内容の周知をはかる。

⑥ 絵画に偏っていた企画展を、美術・工芸・写真・書道など、多方面の作品を紹介し、来館者の幅を広げる。

まだまだ考えられることは沢山ありましたが、地域の人々が、そして、子どもたちが、美術館を必要と感じ、支持してくれることこそ、美術館存続の一番の条件だと考えました。できることから一つ一つ改善していく中で入館者数も増加してきましたので、前年度からは特に子どもたちに対する取り組みに力を入れました。

教育長を通じて、校長会での説明や、各学校への広報活動を行い、美術館利用を呼びかけ、以下の取り組みを行ってきました。

- ① 館内での鑑賞・造形教育（年齢・学年に応じたプログラムを準備）
- ② 学校への出張教室（鑑賞・造形など）
- ③ アーティストによるワークショップ（企画展オープンのために来館した作家の協力を得て館内又は学校で開催）
- ④ アトリエ講座（年四回）・夏休み親子教室（年一回）
- ⑤ 学校美術館（展示スペースのある学校に作品を展示）



鑑賞教育風景(小学生)

今年度になってからは、授業の一環として、小・中・高等学校のみならず、保育園からの来館も増え、休日の土・日曜日には、子ども同士で、また保護者といっしょに訪れる子どもが増加し、喜んでいきます。

子どもたちが幼い時から美術品にふれ、感性を磨くことが、その子ども的一生の大切な宝物になることだろうし、大人になってからも彼らが、彼ら子どもたちと美術館に訪れてくれることにつながると信じています。そして人生をより豊かに生きる基礎になるにちがいないと思います。

市立の小さい館ではありますが、地元の人々により多くの人に愛され、利用される場所であり続ける努力を今後も続けていきたいと思っています。

コロタイプ印刷

コロタイプ印刷はアナログな印刷技術で、デジタル式のオフセット加工と対極にある。日常目にする印刷物の多くはオフセットで、拡大してみると網点が確認できる。カラー印刷ならば、黒の部分でも濃淡を表現するため、赤や青、黄などの網点が含まれるので、純粋な黒ではない。これに対してコロタイプは、いくら拡大しても網点は見えない。黒は黒のインキだけで表現され、濃淡は原本と同じくインキの濃淡で表現する。

文化の言葉

博物館等では、複製資料を作る時にコロタイプで作ることがある。現在は印刷技術が進歩し、オフセットでもかなり精巧な印刷が可能だが、やはり精度を比較すると、コロタイプの方が優れている。その理由は、コロタイプの場合、表現しきれない細かい部分を、専門の画家が手作業で補彩することができるからである。加えて、変色や褪色にも強い。

しかし、難点もある。まず、時間もコストもかかるため、この技術を持つ印刷会社は非常に少ないことだ。また、製作時のコストが高いということは、購入価格も高くなる。

博物館等では、貴重な資料ほど常設展示に活用する頻度が高いため、複製を作ることがある。その際、精度の高いコロタイプにするか、価格の手ごろなオフセットにするかは悩み所である。

(高知県立坂本龍馬記念館 三浦夏樹)

春野町立郷土資料館

豊かな自然に囲まれた春野町。この地で人が生活をはじめたのは約四千年前のことです。それ以来、今日にいたるまでの春野にまつわるさまざまな事項を取り上げ、それらを町内外に発信しているのがこの春野町立郷土資料館です。

当館は町の「文化の里づくり事業」の一環として、町文化ホール・町立図書館とともに建設されました。館内では、関係資料を「春野のあゆみ」「春野の産業」「春野の民俗」「私たちの春野」の四項目に分類し、それぞれ展示しています。また、春野町に関連する資料を多岐にわたって収集し、それらの整理保存や調査研究を行い、その成果である企画展も随時開催しています。さらに、小中学校への講師派遣、各種講座の開催、刊行物等の作成などの普及啓発活動も行っています。春野町は平成二十年に高知市と合併するため、当館も合併後は「町立」ではなくなります。しかし、それ以降も現在と変わらず地域の生涯学習の拠点として、そして文化の発信地として活動していきたいと考えています。

(春野町立郷土資料館 徳平晶)



いの町紙の博物館

いの町は清流仁淀川に沿った町で「紙をすく、いのは水辺のふりし町」の句の如く、古くから「紙の町」として知られ発展してきました。

昭和五十一年十二月土佐和紙が伝統的工芸品に指定、昭和五十六年四月の地域経済振興推進地域に指定、これを契機として昭和六十年三月に紙の博物館を開館し、平成十九年に開館二十二周年を迎えました。

館内では、和紙の歴史と文化、先人の偉業・原料・道具・現代の和紙などをわかりやすく展示しており、伝統的技法による手漉き実演は常時行われ、ビデオ学習、手漉き和紙の体験コーナーがあり、和紙や民芸品の販売も行っていきます。

一階の常設展に加え、二・三階の展示場では特別展を常時開催し、地域のグループ、個人の地道な文化活動の発表の場から国際的規模の展示会までと、土佐和紙に限らない「紙」の文化の掘り起こしや振興・普及に加え、新たな紙の需要の開拓のための土佐和紙の国際化にも大きく貢献しています。

(紙の博物館 渡辺智之)



会 員 紹 介

宿毛市立坂本図書館

宿毛市立坂本図書館は、宿毛市出身で出版社富山房の創業者でもある坂本嘉治馬氏が、昭和四年に郷里の発展、文化向上、人材育成のために、私財を投じ創設した私立坂本図書館が前身であり、昭和二十二年に子息守正氏により、旧宿毛町に寄附をされ現在に至ったものです。宿毛市立坂本図書館は先人の郷土に対する深い思いによりできた図書館でもあり、今後もその意志を守り継承していくことが大切であると感じています。

平成五年に宿毛文教センターが完成。中央公民館、歴史館との複合施設として坂本図書館も新たになりました。落ち着き温もりのある空間として、多くの住民に利用していただいております。施設内でミニ展示を随時開催し、新たに就職・資格コーナー、コミュニティコーナー、行政資料コーナー等を設け、住民への情報提供および生活支援の取り組みを実施しております。昨年十一月よりは、様々な理由で図書館に来館できない方のためにと、宅配サービスを開始しました。これからも多くの住民に利用され愛される図書館運営に取り組んでまいります。(宿毛市立坂本図書館長 三好慶典)

龍河洞博物館(龍河洞冒険コース)

龍河洞は日本三大鍾乳洞の一つで、その長さ約四キロメートルあります。観光コースはその1/4の約一キロで、あと3/4の約三キロは残されています。その一部を長靴をはき、カンテラを下げ、ヘッドランプをつけて、案内人のガイドで探検するコースを、冒険コースと名づけて、平成十一年に始めて、現在までに約二万五千人が学習しました。平均すると年間約三千人が学習したことになります。今まで学習した人達からは貴重な体験をしたとよるこぼれています。そのなかで、カンテラの火を一時消して、全き暗闇を体験することが一番だといわれています。

有名人もホームページをみて、おしるびで体験されたようです。その一人、宇宙飛行士毛利衛さんは「龍河洞はおもしろい。もつと冒険したい」と述べられました。

龍河洞博物館としては、体験学習の一つとして提案させていただき、地元の人たちの協力を得て実現したことで、大変うれしく思っています。案内人は男女あわせて八人位で、交代で案内にあたっています。人数に制限があるので予約が必須です。服装装備もレンタルで、コースも長短はありますが、一日に午前の部と午後の部があり、二ないし三時間を要し、金額も全部で二千円程度必要です。小中高校の団体も受け付けています。今まで二〇校が学習しています。申し込みは電話0887・53・2144、龍河洞保存会。(龍河洞博物館 学芸員 門脇昭)



活動報告

高知県立美術館 JAFRAアワード受賞

高知県立美術館は、平成十八年度の JAFRAアワード（総務大臣賞）を受賞しました。JAFRAとは財団法人地域創造（Japan Foundation for Regional Art-Activities）の活動です。財団法人地域創造は、こうちミュージアムネットワークの会員の方々はなじみが薄いかもかもしれませんが、公立ホールや公立美術館にとっては、使い勝手の良いまとまった助成金や実践的な研修会を通じて日頃から大変お世話になっている財団なのです。

JAFRAアワードは今年で三年目に当たり、初年度には公立ホールをリードする「世田谷パブリックシアター」など九施設、二年目には、総合芸術センターの草分け「水戸芸術館」など七施設、そして今年度は「世田谷美術館」「静岡県舞台芸術公園・静岡芸術劇場」など八施設と共に、当館も受賞の栄誉に輝いたものです。



当館の受賞理由は、「総合アートセンター」として地域の文化を向上——県内唯一の本格的美術館として意欲的な企画展と普及事業を実施。併設されたホールにおいてダンス・現代演劇・映画・音楽などの新しい表現に触れる機会を提供し、総合アートセンターとして県域の文化の向上に貢献した」というものです。審査の基準は、①先進性、テーマ性を有する自主企画作品の制作、公演や自主企画展覧会の開催、内外の優れた作品の鑑賞機会の提供に意欲的に取り組んでいるか、②地域住民の芸術文化活動の育成支援、教育普及活動、住民参加など地域住民との協働に意欲的に取り組んでいるかなどで、専門性を有しつつ地域に根ざした事業を継続的に実施している点が評価されました。文化推進課の情報によると、今回の受賞九施設の中で審査員の合計得点は、なんと当館が最高とのことでした。

今年一月十日には東京で表彰式があり、文化環境部長、当館館長が出席して表彰状と盾を受け取りました。当館にとっては昨年三月のアサヒビル芸術賞に続く受賞となり、エントランス受付に受賞盾を並べて飾っています。来館者の目に触れることで、当館の活動により関心を持ってくださることを期待しています。

文化施設を取り巻く環境は大変厳しくなっています。しかし、地域を豊かにしてゆくためにも私たちは踏ん張らなくてはと思っています。

（高知県立美術館 藤田直義）

平成十七・十八年度の活動報告

【企画調整部会】

- ・会報誌4・5号編集（17・18年度）
- ・情報交換会―指定管理者制度（19年1月17日）
- 【研修企画部会】
- ・研修会「博物館の危機管理」（18年2月25日）
- ・国立民族学博物館 日高真吾氏
- ・「漆芸品など工芸品の保存」（18年8月5日）
- ・東京文化財研究所 加藤寛氏
- ・講演会（18年3月24日）
- ・「山内一豊とその妻」
- ・土佐山内家宝物資料館長 渡部淳
- ・四国ミュージアム研究会へ発表者派遣
- ・高知県文化環境部 友部隆弘
- ・企画展見学会（18年8月21日）
- ・「山内一豊とその妻」
- ・土佐山内家宝物資料館 藤田雅子

【教育普及部会】

- ・「こうちミュージアムネットワーク専門的職員名簿」の刊行（17年度・18年度）
- ・HPに暫定掲示板を作成（18年度）
- 【その他】
- ・県立図書館書庫未整理資料整理作業完了（15～17年度）
- ・18年度、幹事会メンバーや事務局に変更がありました。
- 【会長】 坂本正夫氏
- 【企画調整部会】 県立坂本龍馬記念館／高知市立自由民権記念館／高知市立横山隆一記念まが館／県立歴史民俗資料館
- 【研修企画部会】 土佐山内家宝物資料館／県立文学館／県立牧野植物園／金剛頂寺霊宝館
- 【教育普及部会】 県立図書館／安芸市立歴史民俗資料館／春野町立郷土資料館／県立美術館（HP担当）
- 【事務局】（財）高知県文化財団

時の話題

むかしから博物館、美術館を訪れるたびにミュージアムショップを覗くことが楽しみであった。何に一番惹かれたかという、展示品をモチーフにした新規なデザインに出会うことであった。そのデザインから、イメージが広がり、新たな気分がもたらされた。

ミュージアムグッズには、展示の感動を家に持ち帰り、改めてじっくり見たり触ったりすることで再確認する働きがある。日本のミュージアムグッズはどちらかと言えば、お土産・記念品的な造り方であるが、外国のミュージアムグッズは展示にヒントを得て、それ自身が独立した魅力を有するものが多い。学芸員の見方や感想を真剣に表現しようとしたものや、茶目っ気に走ったものもあって、ユニークで示唆に富んだものがある。

こうちミュージアムネットワークでも内外のミュージアムグッズを一堂に並べて、会員があればこれと感想を述べあう機会があれば楽しいと思う。そうすれば新たな発想が得られ、イマジネーションが広がることにもなるうし、仕事から一歩離れて展示物を観察することで異なった側面も見えてくるだろう。

自由民権記念館に勤務しながら、自由民権をグッズで表現したら、どんな形や色が相応しいかを考えてきたが、今だにぴったりにくる着想には至っていない。独り善がりにならないためには幾つか試作して、お客さんの反応で結論付けるものがある。

（高知市立自由民権記念館長 西田幸人）

コラム
ナイト・ミュージアム
 [夜のお仕事]

「夜の植物園」

高知県立牧野植物園学芸職員
 里見和彦

牧野植物園では毎年八月の第三、四の土日に、「夜の植物園」という夜間イベントを行っています。この企画の発端は二〇〇〇年の八月のある夜、残業していた職員が温室で見事に咲いたパラグアイオニバスを見つけたことに始まります。この花は夏の夜二日だけ咲くのですが、長年努めたその職員も花を見たのは初めてのことでした。このように園内には夜にだけ咲く花を持つ植物があります。真夏の日は暑さが厳しく来園者も少なくなりがちですが、日も沈み涼しくなった園地で、夜咲く花を見て音楽やお店を出して楽しむイベントをすればきっと多くの人が参加してくれるに違いないということになり、翌二〇〇一年から夜間イベントとしてスタートし、昨年で六回目を迎えました。夜の植物に親しんでいたことをメインに置き、植物を使った手作り教室やコンサート、出店などは年々工夫をして新しくしています。今年も八月の夜に「夜植（ヨルシヨク）」開催予定です。夜の花に集う虫たちのように今年もたくさんの方が来てくれることを願っています。

「さむらいのこわいお話」

高知市生涯学習課 丸山和代

高知市の江ノ口川沿いに白い漆喰壁の武家屋敷がたずんでいます。ここは高知市保護有形文化財の旧手嶋家住宅で、高知市大川筋武家屋敷資料館として生涯学習課が管理しています。

夏の武家屋敷...というところで、開館した平成十一年より、文化財の活用を目的に毎年八月に待の登場する少しこわい昔話朗読会を開催しています。朗読は、NPO法人の方々に依頼していますが、会場設営は職員が行っています。武家屋敷には照明器具がありませんので、雰囲気を出すために、



「絵金蔵のコンサート」

絵金蔵長 横田 恵

絵金蔵では、開館当初から展示室を使つての夜間コンサート企画を続けています。

この二年間で南米音楽、アイルランド音楽、豆電球さんの「おきやくライブ」、長唄三味線など、さまざまなジャンルの第一線の方をお迎えしてきました。

使用するのは一〇〇名も入れれば満員になってしまふ展示室。少し窮屈ですが、大きなホールとは違い、演奏者が手が届く程の距離感が人気です。また、絵金の芝居絵が飾られ、もと米蔵だった空間は、

あんどん風やクリップ式、色セロファン入りの照明をセットしています。

「さむらいのこわいお話」で何がこわいか?というところ、もちろん朗読もさることながら、行事の前日、リハーサルが終わって女子職員二人だけで戸締りする時なのです。

普段は、管理委託で専属の職員がいるので、職員が鍵を閉めることは年に数回のみ。おまけに鍵穴等は昔風に造作しているの、鍵を閉めるのも一苦勞。その上に照明をすべて消灯して帰るのだから、片手には懐中電灯、夏の暑い中、汗はもちろん、手には油汗をかきながら、「〇〇さん、次は△△の戸を閉めて照明

いつものコンサートとは一味違う雰囲気醸し出してくれ、お客様だけではなく、演奏者の方にも人気です。

そしてもうひとつの魅力は、音楽を聴きながらお酒が飲めることです。季節によって、新酒の地酒や音楽に合わせたお酒を提供しています。

展示室を使うので、実は会場設営だけをとつても労がかかるのですが、絵金に興味のない方にも足を運んでいただくきっかけにもなりますし、絵金蔵で数々のコンサートに携わつてきて、演奏者と観客が一体となり、軽くお酒を飲みながら楽しむことが、音楽の原点なのだと気付かされます。

「夜のいち動物公園」

高知県立のいち動物公園飼育課長 多々良成紀

も消しますね」と大きな声を出し確認をして、次々と戸を閉め照明を消していきます。職員の顔は、真剣そのもの。漆黒の闇の中、置き去りは嫌だから。最後の門を閉めて外に出ると安堵の顔。そのおかげで、当日の片付けは、プロ並みの速さで終了しました。さて、今年の夏もこのチームプレイは見られるのでしょうか。

当園では夏期、涼しい夜に動物たちを観察できる「夜の動物公園」に取り組んで一〇年になります。当初は五〇人限定予約制のガイドツアー形式でしたが、次第に展示エリアを拡大し、受け入れ人数も増やして自由観覧に移行していきました。例年大好評につき、平成十五年からは現在の形の夜間一般開園（8月9日の土曜日3回、18時21時）にしました。照明増設などの安全対策、ならびに臨時駐車場確保やシャトルバス運行などの渋滞対策等、毎年試行錯誤をしながら課題を克服してきました。ただこの時期の天候は変わりやすく、また祭りや花火などの影響もあり、来園者数は一〇〇〇人〜五〇〇〇人と変動幅が大きく、それぞれに相応な体制を取ることに最も腐心しています。

かつては夜の暗い中、動物を展示場に出すことなど考えられないことでしたが、今や夜間開園は全国の動物園や水族館で定番のイベントに育ってきました。常識や先入観にとらわれない思考と、スタート時の小さくないエネルギー負荷の覚悟があれば、まだまだ新しい効果的な企画を立ち上げる余地はあるように思われるのです。

平成十八年に放送された大河ドラマ「功名が辻」。司馬遼太郎氏の小説が原作の、土佐藩主初代・山内一豊とその妻の物語です。十八年の高知県は、土佐国Ⅱ高知県が物語の舞台に登場することに加え、山内一豊の子孫が土佐藩主を幕末までつとめた山内家とゆかりの深い土地であることもあって、大河ドラマ「功名が辻」で盛り上がる一年となりました。

そして私のつとめる土佐山内家宝物資料館（略して山内資料館）は、名前の通り山内家の資料を収蔵する資料館です。そのため、良くも悪くも「功名が辻」効果の恩恵にあずかる結果となったわけですが、年も改まり余波も一段落した今、そんな日々を振り返ってみようと思います。

表題を「功名が辻」の「一年」としましたが、実際には山内資料館の「功名が辻」年は、二年間にわたりました。平成十八年の大河ドラマでの放送が決まったのは十六年夏。決定とほぼ同時に、「山内一豊って、誰？」という問い合わせや、「おめでどう！」というお祝いの電話をいただくとともに、関連書籍刊行や番組紹介に向けたマスコミ各社からの写真借用依頼、問い合わせが次々に来るようになりました。普段は世間から忘れられていると言った方が近いぐらいの資料館。一豊夫妻肖像画の写真も、そんなに用意があるわけがありません。あつというまにパンク状態になり、通常の対応では追いつかない状況になってしまいました。つづいてドラマ開始にあわせて設定された団体ツアーも統々と企画され、来館者の方々への展示解説や団体客対

応も非常事態的な状況が続きました。そして舞い込んだ大きな企画が、大河ドラマと連動して企画された、巡回展「山内一豊とその妻」。これは山内家資料が高知県への移管が完了してすぐの、県外での初お披露目にもなりましたし、高知会場での展示には「土佐二十四万石博覧会」の一会場でのイベント、という意味もありました。

と会場を移す展示にしたがい、他館での山内家資料展示の立ち会い・補助に行きました。平行して資料館展示室と「二十四万石博覧会文学館会場」でも山内家資料を同年展示しましたので、山内資料館・文学館・巡回展会場と毎週どこかで展示替えをしながら、当館が主催する高知会場の企画準備・広報をすすめるという日々でした。

「功名が辻」の一年



現場通信



特別展の展示作業風景

山内資料館の「功名が辻」は、振り返れば実質上この展覧会の準備開催がほとんどであったといえるでしょう。十七年の年明けから企画・準備期間に入り、年末に東京で始まる最初の展示に向けて、資料貸出や図録の準備に追われます。展覧会がスタートしてからは、翌十八年四月の静岡・七月の高知

広報活動もろくな経験がないもので、手探りの状態ですすめたわけですが、多くの方が展示を見に来てもらえるようにと、十八年前半は特に積極的に各地へ出て行きました。各地の学校や老人会などで会合があると聞けば宣伝にかけつけ、講演会の依頼があれば県内外を問わずにかけかけます。

時に山内家とゆかりある地域の施設と共催のかたちで講演会も企画しましたが、ドラマを見て興味を持ったという方々がたくさんいたことにはあらためて驚きました。参加者も普段と較べてずっと多く、また話を聞く方々も大変熱心なうえ、普段はあまり見かけないような若い参加者の姿もちらほら見えて、テレビの効果のすごさを肌で実感したものです。各地に行つての講演は、肉体的にも精神的にもつらいことがありましたが、話を聞く人たちの反応を直接に感じられて話をする自分が逆に勇気づけられたり、後日皆さんで展示を見に来て下さったりしたのは、裏方で作業していただけでは得られないうれしい経験でした。

と、振り返ると「功名が辻」期間中の山内資料館は、展示三昧の日々、という感じがします。もうおなかいっぱい、というのが正直な感想ですが：：おそらくこんな機会は今もう当分ないでしょう。普段できない色々な企画ができて、たくさんの方々にお世話になり、これまで資料館が踏み出せなかった新たな世界に触れることができました。この2年間で見聞きしたことは、どれも私たちのいるような小さい資料館ではなかなか経験できないことばかりだったと思います。入館者数実績のように数字で表せるものではありませんが、今後につながるたくさんさんの経験ができたこと、終わってみればこれが私たち職員にとって一番の「功名が辻」効果だったように思います。

（土佐山内家宝物資料館

学芸員 藤田雅子）



「市民がつくる展覧会」のスタッフ募集を知ったときに、正直なところ「県立美術館は大胆なことを始めたなあ」と驚いた。自分自身が事務局やボランティアの立場で関わったいくつかの事業を思い出してその大変さを想像してしまつたからである。何もないところからひとつの事業を立ち上げていく大変さ：：そんなことも考えながら「市民をつくる展覧会・念力キャンバス展」を観た。併せて同時期に開催されていた「石元泰博写真展・冬のシカゴ」、シヤガールの「聖書の世界展」も観た。

「念力キャンバス展」では、展示点数は少ないが、それぞれの作品が与えるインパクトに強烈な「念力」をかけられたような印象である。ここまで展示点数を絞り込むには相当熱心な議論が交わされたのではないかと想像した。展示されている作品には、初めて観るものもあったが、舟越桂、合田佐和子、横尾忠則など、これまでの収蔵

●●●●●●●●●●
高知県立美術館
「念力キャンバス」
 平成18年10月27日～11月19日

資料展でも「おなじみ」の作品もあり、バランスが取れていたと思う。また、展覧会を作り上げていくプロセスはパネルで簡単に解説されていたが、肝心のところがなかなか伝わってこない感じがした。そこは少し残念に思った部分である。

さて「念力キャンバス」が自由な感覚で選ばれた展示だとすると、他の二つは明確なテーマとストーリーイをもつて展示されている印象があった。「冬のシカゴ」では作品展示の他に資料整理のための用具を展示し、そのプロセスを解説しているコーナーもあり、美術館の活動の一端を知ることができるようになっていたし、「聖書の世界」では、キャプションの漢字にルビをふり、活字も大きくするなど、小学生の観覧にも対応できるもので、以前よりも工夫されたキャプションになっていた。このように細かいところもおざりにしない姿勢にも刺激を受けた。

私は今年度の美術館主催の企画展にはすべて足を運んだが、このときもつとも満足感があり、結局二度足を運んだ。私事ではあるが、体調を崩し、思うように身体が動かない時期に観たので、展示を観て感動している自分に「身体が動かなくても心は動くものだな」と妙に感心したことを覚えている。

「市民がつくる展覧会」の意義については、関連行事の「メイキング オブ 念力キャンバス展」で報告され、二〇〇六年十一月二十四日付の高知新聞朝刊に竹内記者がまとめておられるので重ねて書くのは避けたいが、将来、美術館の活動が検証されるときに、ひとつの転機となる企画と位置付けられるのではないかと感じている。
 (高知市立自由民権記念館 宮崎篤子)

歴史や文化について調べるときは、参考文献、様々な資料情報を有する博物館・美術館・図書館、現地のフィールドワーク等が欠かせないことは言うまでもないでしょう。

実際、歴史・文化に関する業務を司る私たちミュージアムの職員の間には、様々な人からの問い合わせが寄せられます。その時に「地域の歴史について手っ取り早く知る事の出来る図書類は何がよいかな？」とふと考えます。

図書の窓
「高知の地域史を調べる手引き書」



『街道の日本史 土佐と南海道』秋澤繁・萩慎一郎編 吉川弘文館 2006年 2,730円

『高知県の歴史散歩』高知県高等学校教育研究会歴史部会編 山川出版社 2006年 1,260円

『高知県の不思議事典』谷是編 新人物往来社 2006年 3,150円

たのか？またそのルートは？について、地理・歴史・民俗の視点から考察したものです。これを讀むと、高知県は、太平洋と四国山地にはさまれた険しい地形ゆえに閉鎖されたわけではなく、伊予・阿波方面との交通網を通じて、人的・物的交流があったこと、それは、藩や自治体主導だけに留まらず、民間レベルでも行われていることに改めて気付かされます。

◆『高知県の歴史散歩』

「高知県の文化財」をテーマに、県内の史跡・人物・食・祭礼等に関する事柄を、写真・地図を多用し、旧版よりずっと多く紹介しています。また、巻末には、高知県の歴史の概要と年表、県内各地のミュージアム、祭礼行事、交通機関、観光案内所等々、フィールドワークをする上で欠かせない情報が掲載されています。いわば、地域史を調べる「ガイドブック」として活用できる内容です。

そんな折り、ズバリ当てはまる図書が、昨年(二〇〇六年)相次いで出版されました。

しかし、紙数の関係もあるので、次の三冊の概要紹介に留めさせていただきます。

◆『街道の日本史 土佐と南海道』

県内の各地域に残る生活と文化はどのようにして作られたのか？他の地域とどのような人的・物的交流をしてき

◆『高知県の不思議事典』

「幕末・明治維新」や「自由民権」という高知の代表的な歴史上の事柄だけでなく、「いごっそう」の語源、「鯉の一本釣り」のはじまり、「地震によって形成された海岸段丘」など、高知の名物について、知っているようでも知らない事柄が掲載されています。それらは、いわゆる「雑学」的なものにとどまらず、最新の研究成果も織り交ぜて、わかりやすく紹介している内容です。

皆さんもこれら3冊を「コンパス」にして、「ふるさと高知」を探検してみませんか？
 (中岡慎太郎館 豊田満広)

情報コーナー

展示会

- ◆いの町紙の博物館◆
 - 第75回日本版画協会巡回展
4月1日(日)～4月22日(日)
 - ◆高知県立坂本龍馬記念館・中岡慎太郎館・高知県立歴史民俗資料館◆
 - 坂本龍馬・中岡慎太郎没後140年特別展「龍馬・慎太郎」展
7月28日(土)～8月28日(火)
 - ◆高知県立坂本龍馬記念館◆
 - 樋口真吉展
10月1日(月)～12月16日(日)
 - 幕末写真展
12月17日(月)～翌年3月20日(木)
 - ◆土佐山内家宝物資料館◆
 - 容堂の旅―箱根旅行絵巻―
3月1日(木)～5月8日(火)
 - 藩主の祈り―信仰と政治―
5月12日(土)～7月10日(火)
 - 土佐藩歴代藩主
7月14日(土)～9月11日(火)
 - 武家のたしなみ―藩主の教養と藩校の教育―
 - ◆高知県立牧野植物園◆
 - 9月15日(土)～11月27日(火)
●春の植物画展
4月1日(日)～5月6日(日)
 - 秦泉寺由子 in Kochi 特別展キルトの世界―植物の神彩
6月1日(金)～7月1日(日)
 - ボタニカル・ルーム―牧野博士に捧げる、植物とアートのある空間―
8月1日(水)～31日(金)
 - ◆横倉山自然の森博物館◆
 - 西村洋一画文集―風を紡いで―出版記念展
3月24日(土)～5月6日(日)
 - 南極―その不思議と魅力―(仮)
7月21日(土)～9月2日(日)
 - ◆香美市立詩とメルヘン絵本館◆
 - 味戸ケイコ『夢の果て』原画展
3月14日(水)～5月14日(月)
 - ◆高知県立のいち動物公園◆
 - 第16回「いち動物公園写真コンテスト」作品展
9月17日(月)～12月2日(日)
 - 第15回「いち動物公園写真コンテスト」

図書出版案内

- ◆『博物館が好きっ！―学芸員が伝えたこと―』
41人の四国の学芸員が語るメッセ―ジ。一、六〇〇円(税別)。四国ミュージアム研究会編、教育出版センター発行。
- ◆高知県立歴史民俗資料館◆
 - 竹―パンブー・スタイル―
4月21日(土)～6月10日(日)
 - 土佐発掘物語
10月6日(土)～11月25日(日)
 - ◆高知県立文学館◆
 - 夏目漱石―漱石山房の日々―
4月8日(日)～5月20日(日)
 - 高知県立美術館◆
 - 日曜市―台所から観光名所へ―
4月7日(土)～6月3日(日)
 - 生誕120年マルク・シャガール―愛の世界―
6月9日(土)～7月22日(日)

新会員紹介

- ◆高知女子大学・高知短期大学
総合情報センター図書館◆
当館は本学における研究・教育活動の発展に寄与することを目的として、必要な資料・情報を収集・整理・提供してまいります。
蔵書数は、併設の高知短期大学を含めて約30万冊、雑誌約3,000タイトルです。高知女子大学は2つのキャンパスに分かれており、永国寺キャンパスは生活科学部・文化学部、池キャンパスは看護学部・社会福祉学部関連を中心とした資料を所蔵しています。
【連絡先】永国寺キャンパス
高知市永国寺町5-15
電話 088-873-2421
池キャンパス
高知市池275-1-1
電話 088-847-8701
【香美市立美術館(本号2P参照)◆】
【連絡先】香美市土佐山田町262-1
電話 088715315110

会員一覧

入会を希望される方は事務局
県文化財団 TEL088-866-8013 まで

- 安芸市立書道美術館
 - 安芸市立歴史民俗資料館
 - いの町紙の博物館
 - いの町立吾北中央公民館
 - 絵金蔵
 - 絵金資料館
 - NPO 法人高知こどもの図書館
 - NPO 法人四国自然史科学研究センター
 - 香美市立美術館
 - 香美市立やなせたかし記念館
 - 香美市立吉井勇記念館
 - 高知県立足摺海洋館
 - 高知県立坂本龍馬記念館
 - 高知県立図書館
 - 高知県立のいち動物公園
 - 高知県立美術館
 - 高知県立文学館
 - 高知県立埋蔵文化財センター
 - 高知県立牧野植物園
 - 高知県立歴史民俗資料館
 - 高知市生涯学習課
 - 高知市立市民図書館
 - 高知城懐徳館
 - 高知女子大学・高知短期大学
総合情報センター図書館
 - 高知市立自由民権記念館
 - 国際交流の館ジョン万ハウス
 - 子どものための民具体験館
 - 金剛頂寺靈宝館
 - 佐川町立佐川地質館
 - 四万十町立美術館
 - 定福寺
 - 宿毛市立坂本図書館
 - 宿毛市立宿毛歴史館
 - 竹林寺宝物館
 - 土佐足摺さんご博物館
 - 土佐市立市民図書館
 - 土佐豊永万葉植物園
 - 土佐山内家宝物資料館
 - 中岡慎太郎館
 - 中村時計博物館
 - 春野町立郷土資料館
 - 平和資料館草の家
 - 木遊館 樹華夢
 - 横倉山自然の森博物館
 - 横山隆一記念まんが館
 - 龍河洞博物館
 - 龍馬歴史館
 - わんぱくこうちアニマルランド
- 個人会員
林 一将 (古溪城)

こうちミュージアムネットワーク通信 第5号

平成19(2007)年3月20日
編集 こうちミュージアムネットワーク企画調整部会(県立坂本龍馬記念館・高知市立自由民権記念館・横山隆一記念まんが館・県立歴史民俗資料館)
事務局 (財)高知県文化財団
電話 088-866-8013
印刷 弘文印刷